

第3回北播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録要旨

1 日 時：令和3年1月26日(火)15:00～16:30

2 形 式：対面（一部オンライン）会議

3 出席者：

委員：田中委員長、内藤副委員長、山本委員、依藤委員、中野委員、徳岡武義委員、藤後委員、下岡委員、谷尾委員、

（オンライン出席）：松本委員、三宅委員、奥貫委員、河越委員、徳岡和秀委員、降松委員、入江委員

（欠席委員：真鍋委員）

県側：上田局長、野村副局長、須貝室長、小林班長、藤井主査（ビジョン課）

4 内容

（1）報告事項（1）～（4）資料1～7について事務局から説明

[委員長]

事務局から説明のあった資料4から7「地域デザイン案」「ビジョンを語る会」「将来構想試案」「北播磨地域ビジョンアンケート結果意見」を、新地域ビジョンを策定する際の議論で活用するので、ご了承の上、ご協力をお願いする。ちなみに、先ほど、ビジョン委員会の企画部会を開催し、その場でこれとの関係で私が気になることを質問した。資料7にアンケート結果の分析などのまとめがあるが、これは幅広い年齢層の方からのアンケートだった。資料4の北播磨地域デザイン会議は若い世代の方を中心に議論されたが、資料7のアンケート結果は、地域デザイン会議の第2回目データ情報を共有し、アンケートの様々な要素を加味しながら会議が行われ、幅広い世代の方のアンケートの結果は、反映しているというような説明があった。資料7にあるようなアンケートの意見や分析等についてのいろいろな意見も反映しているものと考えている。

（2）協議事項（1）資料8について事務局から説明

[委員長]

資料8、新地域ビジョンの構成についてが協議事項になるが、資料4から7を踏まえて資料8ができていくことを考えると、資料4から7のことについての何か意見、質問も含めてよいのか。（事務局：はい）ということなので、ただいまの資料を踏まえた上で、資料8の構成イメージについて、意見や質問等があれば、意見交換の時間としたい。

[事務局]

非常に広範な説明をさせていただいた。我々としては、何に力を入れていけばいいのかという事を伺いたい。これは書き込まないといけないという点を、皆様の視点でご意見をいただきたい。デザイン会議やビジョンを語る会の資料を見ればわかると思うが、30年後というのは本当に雲をつかむような話だ。参加者は、日頃の経験の延長線上で、それぞれ意見を述べている。共通意見もあるが、参加者の意見は様々だ。例えば、北播磨の非常に豊かな自然を残したいとか、温かい思いのある地域だからそれを残したいというような共通意見もあるが、委員の皆様からは、こういったところを地域として伸ばしたいとか、或いはこれは少し変えていかないといけないというような意見をこの場でいただければ、この構成を考えるにあたり、今後どのように反映していけばいいのかという議論に繋がる。事務局からも、どういう説明をすればいいのかわかりにくく申し訳ないが、そういう点について、自由に

意見をいただきたい。今後、起草部会で自由な意見をいただける場になるので、皆様方からは是非ともこういうことを議論してほしいとか、或いは地域の住民の方に問いかけてほしいというような意見を伺えればありがたい。

[委員長]

起草部会での議論の参考になるよう意見が出ると、今後の起草部会で議論が深められるということなので、今の説明の趣旨で発言いただきたい。

[副委員長]

資料5の7ページ、吉川町商工会での発言で、北播磨地区は兵庫県下の20%の耕地面積を誇る農業大国で、30年後も農業で北播磨の未来を築くというようなことが書いてある。古代までさかのぼっても、この播磨の国は、豊かな土地だったと思うが、兵庫県の食料自給率は16%しかない。国全体は37%。北海道のように、198%というのは無理でも、この兵庫県の水田や耕地の沢山あるところが、廃れていき、農業が衰退している。

第一産業なので、グローバルズの潮流の中で生産効率という点では一番難しいところだ。しかし、この北播磨は播磨平野にあり自然豊かなところで、農業行政の中心や学校がたくさんある。それは北播磨ならではの特徴だと思う。

消費地に近いというメリットもある。これからますますIT化が進み、都市化が進んでいく。そういう中で田園回帰の流れに見られるように田舎が復権し、有機農業が普及され有機野菜が食べられるようになれば安全安心な食で、地域住民は健康になれる。優れた農業の立地条件を備えているのに、それが生かされていないのが非常に残念だ。

北播磨ならではの特徴を打ち出すのであれば農業振興が重要だ。消費地にも近いので交流も活発になる。ところが今、農業の担い手が不足し、農業基盤が揺らぎ大きな転換期を迎えている。もう少し幅広く、北播磨管内にある農業研究機関等から、北播磨に合った農業の振興策を打ち出すことができれば都会にアピールができるのではと思う。

まず北播磨の5市1町で食料の自給圏を形成するのはどうだろうか。遠いところばかりでなく、それぞれの市町を豊かにしながら、互いがマーケットになる。そういう経済ネットワークを構築し、道路整備等をしていけば、随分と北播磨の進展が図れると考える。これだけの農林業の基盤がありながら、自給率が16%というのは、本当に情けない限りだ。山や川、美しい空気や緑がある。サステイナブルなデベロップメント、自然を復権するという意味でも非常に意味があることだと思う。以上を提案したい。

[委員]

ビジョン委員会の産業分科会で、農業について話し合いを重ねている。山田錦は北播磨が発祥の地だが、今は全国で作っていて、ブランド化をしていかないと残っていけない。有機栽培、オーガニックを探している消費者の方たちはいるが、町に持っていくと売れるが、この辺では売れないため栽培が広がらない。若者の中には、農薬を使わないで栽培したいと加東市に移住してきた方もあるが、農薬散布の手違いで耕地が使えなくなり、引っ越した方もある。農業がしくて土地を探している方もあれば、小野市の下東条地区の方では、後継者がいない土地もある。それを上手くマッチングできる仕組みがあればいいのではないかと考える。このコロナ禍で、東京への人口、医療等の一極集中が、大きな問題となっていることを考えると、実際に若者で少しずつ地方に移住してきている方もいると思うが、地方へそういった方たちを呼びながら、北播磨は大規模では北海道や東北にかなわないが、行政のサ

ポートで、小面積の農薬を使わない野菜を届けられる仕組みができたらいと思う。若い人たちが来ないと、その上の世代を支えることができない。各市では難しいかもしれないが、社高校生たちが、各市の特産品を使ったお菓子を作って、地域をPRしているような、この5市1町一体になってそういう取り組みができないのかなと思う。

[委員長]

今の意見は、例えばビジョンの構成イメージで言うと、第4章の(3)活力ある地域の実現の中にある農業の活性化で、しかもそれが、若者が活躍できる農業ということ考えた方がいいという趣旨か。結局、現在の農業のあり方でいうと、兼業農家であるとか、これから先は大型化が必要だとか、或いは後継者がいないとか、そういう問題があることを含めないと、こういう問題は、なかなか進展していかないというようなことを意識し、また、例えば山田錦のようなブランドということ意識することが、活力ある地域の実現のための農業に関するあり方だと、そういうことをここに重点的に盛り込む必要があるというような意見のように伺ったが、そういうことでよいか。

[委員]

資料4の北播磨地域デザイン会議のことで質問する。これは令和2年から実施されたのか。この表紙を見ると、どんな地域にしていきたい？ 30年後はどうなっている？ こんな地域にしていきたい！ 最後に、みんなはどう思う？ と書いてある。次のページにあるように、年齢別で大体45才以下の若者達が、この会議でいろいろ意見を述べている。この中の実施報告を見ると、みんなはどう思う？ の今現在の思っていることしか実施報告書にはない。もっと踏み込んで、それではどうしたらいいか、30年後にはどうあるべきか、そのためには、自分たちはどうしたらいいのか、若者たちはどうすればいいのか、30年後はもう私はいないが、今から次代を担う彼らたちが、どのように立ち上がるかということ、踏み込んでやってほしいと思う。この会議は令和2年度からだが、どうなってほしいか？ ではどうすべきか？ 最終目的の答えは出ていない。3年～5年のスパンで継続して開催してほしい。今回会議に参加した若者達が北播磨の将来に目覚め始めたこの機会を活かして頂きたい。(事務局：デザイン会議は、新ビジョン策定の素材にしたいということで開催したもので、これで終わりになる。今後は、意見を聞く必要があれば、フォーラム等、別の形で考えていくことになる。) この委員会も、これからの若者達もこういう会議に入ってもらい、危機感を持ってほしい。そうすれば自分たちが立ち上がろう、どういったことから始めようとする機会になる。それを県民局がサポートし、実現していくという形になれば嬉しい。

次に資料6の将来構想試案についてだが、8ページを見てほしい。2030年にはスマート農業の普及とある。先日、NHKで見たが、人工衛星で管理する農業だ。陸が少ないため、海上にビニールハウスを持っていき、人工衛星で全部コントロールして作物をつくる。水は海水でろ過(肥料はプランクトン)という様な農業が研究されているのを知ったが、ここにスマート農業が出ているので驚いた。また、2050年に宇宙エレベーター完成。大林組と書いてあるが、この大林組も未来の住居についてその番組で報告していた。未来の住居は、人間が自然に合わせるのではなく、住居が自然に合わせていく。そのため、多面系で、太陽の光によって住居が変形していく。災害の時には、足が出て住居が持ち上がる。そういったものが、どんどん研究されていたが、全部報告事項に挙がっているのでびっくりした。そうなれば、北播磨はどういった形で残していくのかが問題になると思う。北播磨の特色は、ほど

よい田舎だと思う。また、北播磨一帯で、全部一括りにするのではなくて、それぞれ5市1町の特徴があるので、横並びにするのは無理があると思う。唯一、一本化できるのであれば、歴史文化、これを大事にして、次代の人に継承していく。それが一番、北播磨一体としては、共通していると思う。全部を一体化するのは、難しいと思う。これからは、若者にどんどん情報提供し、こういった会議に組み入れてもらい、意識を向上させてもらうのがいいと思う。

[委員長]

ただいまの意見に関して、何か事務局からありますか。

[事務局]

まず若い人の意見も入れて、どんどん若者が立ち上がっていくような形での方向性が欲しいという意見だったが、そういう形もビジョンの中に入れるということもあるが、基本でのビジョンは、30年後を北播磨がどのようになっていたらいのかという、共通した理想的な姿をまず置くということを目的にしているので、今回のデザイン会議においては、どういった北播磨の社会がいいのかということを考えてもらったという状況だ。そして、若い人たちが立ち上がって欲しいという意見で、そちらについては、今度は実践という形になるかと考える。ビジョンの立て付けとしては、ビジョンがあり、次はビジョン委員会というものが、今回10期の方が活動しているが、そういった実際のビジョンのもとに、ビジョン委員会という形の活動がまた、新たに始まる中で、具体的な方法を生み出していくというようになるのかと考えている。いただいた意見は、若い人たちが立ち上がるような、立ち上がっている姿が望ましい姿だということといただいた意見だと思うので、それはビジョンの中に反映させていくよう、整理をしたいと思うが、具体の活動という点になると、先ほど申したように、ビジョン委員会で実践活動に入っていくというような位置付けになるかと考える。

[委員長]

今のやりとりから考えると、新地域ビジョンというのは、まずは、理想の形、望ましいあるべき姿というのを語りたい。その次に具体化、実践化があるということだと理解した。今、依藤委員から話があったのは、その現実化、実現化のために、例えば、北播磨の一体化ということを考えたときに、具体化を意識して、有効で実効性のあるものに焦点化して、単なる望ましい姿ということではなく、実現性、有効性がどれほどあるかということと考えられる点に絞ってやればどうかという意見のように伺ったが、そういうことでよいか。一方、このビジョンは、理想や望ましい姿を述べながら、それが、これは実現性、有効性があるか、ないかということ少し背景に持って、具体化にもつなげていけるような、そういう状況の議論が望ましいということかと伺った。そういうことで、検討いただければと思う。

[委員]

資料8の、北播磨新地域ビジョンの構成イメージに（1）人口減少・超高齢化とある。そこに例えば移民の増加というのが必要ではないかと考える。今後増えていく移民、移住者のことが少し触れていないように感じた。

また、資料5「ビジョンを語る会」、資料6「兵庫県将来構想試案」などの外国人に関する記述について、例えば、老いも若きも外国人も、という表現がある。外国人を一分類として区分するのではなく、国籍に関わらず老若男女、が適当でないかと思う。

(例)第3章(1)人口減少・少子化・超高齢化・移民増加（外国人の定住者増加）

近年、増加している外国人との関わりを委員には深刻にとらえていただきたい。

対応策をビジョンに反映できるように検討していかなければいけないと感じている。外国人が在住する理由や彼らによって生じた利益を社会に還元しているということ、日本人に意識啓発するようなものであってほしい。海外では、過疎化に悩む地域に逃れた難民が地場産業を活性化し、市民権を得るに至ったケースがある。外国人を、共存共栄を目指す仲間と捉えると、地元の活性化を促進できると思う。

翻って、米国のアフリカンアメリカンやヒスパニック、北欧の国々への中東の移民など世界各国では人種間での軋轢が生じている。ここ数年、在住外国人が増加した日本は多文化共生に関する経験値が低く、多様性を認める社会とは言い難い。外国人の増加に伴い発生する諸問題は次第に解決し、人種間の差別はなくなるだろうという楽観的な見方は危ういと思う。

[委員長]

例えば外国の方々のいろいろな状況、地域における活動や状況というようなことがアンケートなどにも、よく出てきていた。これから先の30年を考えると、これは無視できないことで、構成の中にぜひ入れて欲しいということでしょうか。

[副委員長]

今、外国人の方の話が出たが、将来構想試案の大潮流でも人口減少・超高齢化と出ており、これからは外国人がますます増えてくると思う。中国、韓国はじめ東南アジア諸国などのアジアの人口が世界の人口のかなりの部分を占めていて、その交流が活発になっている。インバウンド観光や、外国人労働者として来日している。それも3年ということで、技術を覚えたころに帰ってしまい、招いている方からすれば本当に使いにくい。もっと活躍してもらいたいと5年に増えたが、まだ低賃金で抑えたいこともあり、欧米各国が行っている移民という制度は認められていない。このように国の法律が変わらないのでなかなか難しいと思う。しかし、在留外国人の数だけ見れば移民大国ということになる。これからは、50年までの間に、沢山の外国人が増えてくると思う。そうなれば人種や言葉、文化の違う人が増えることで、社会のありようが異なり課題も生まれてくる。

日本はこれまで同質社会で、良くも悪くも同調圧力が強く、契約で成り立つ西洋社会とは異なる社会を築いてきた。田舎の日常生活では村社会というのがあり、明文化された規則もなく、年長者や経験者の意向を尊重しながら運営されてきた。そういう中で新しい住民が入ってきたときに、外国人も含めて、何に従っていいかわからない。経験でしか身についていけないということがある。

日本人は郷に入れば郷に従えとよく言うが、これからはそれだけではうまく運ばない。新しい住民や外国人が、すぐに馴染めるような、わりやすいオープンな社会をつくっていかないと新しい時代に対応できない。このことは見えにくいところだが、実はそれがすごく障害になっているように私は思っている。

今後の社会を考えたとき、このビジョンを作るときのキーワードは、「共生」ではないかと思っている。共に栄えるという、気持ちが必要で、北播磨の各市町同士も、お互いに協力しリスペクトしながら、北播磨としての一体感で自給自足体制等を作って、お互いに繁栄していかないと、人口減少する中で非常に難しい。ネットワークが大切で、しかも近隣との緊密なネットワークの構築が核となる。

人口が減り高齢者が増えるということは、働き手が減り若者が減るということでもある。それと共に、近年問題になっているのが社会の基本的最小単位である家族の崩壊である。今は日本で一番多い家族形態は単身家族である。家族が崩壊していくのをそのままにしているのか。昔家族が果たしてきた機能が次々と社会化されてきた。便利になっているが、失われているものが随分ある。将来に渡って今のまま

放っておけば、孤立した人が増えていく。昔だったら子育てでは親が、祖父母が教えていた。昔ながらに伝えてきた伝統的な価値が失われていく。

そういう生活様式や考え方、伝統などは、一朝一夕に変化するものではない。新ビジョンの中に、うまく取り込み皆で努力し啓発していくと、外国人が入ってきて、高齢者やバイセクシャルやトランスセクシャルの人が入ってきて、うまく共生していけるのではないかと思う。今までの競争から北播磨管内では共生で助けあい、市町村も、お互いをリスペクトし、個性を生かしながら、進んでいけるようなものができればいいと考える。

[委員長]

今の話は、ビジョンの構成イメージで言うと第3章の、将来構想試案の中で人口減少・超高齢化の具体的な話で二つ。一つは外国人との付き合いの仕方、一つは、現在の日本における家族のあり方や、家族に対する価値観、そういう視点での将来構想試案を意識して欲しいという要望だと伺った。一点確認したいのが、先ほどの企画部会で、外国人の数が1,800人という数を聞いたが、あれは北播磨地域の外国人が1,800人だったか。(事務局：加東市の人数)加東市だけだとすると、北播磨は、外国の方の人口割合は、兵庫県の中では高い方か、平均的か、低いのか。

(事務局：令和2年1月1日の数字だが、北播磨は人口に対して外国人の割合は2.46%。それに対して県全体では2.06%。ということで、若干高い数字だ。)

ということになると、平均よりも高いということで、北播磨地域のビジョンのあり方として、将来構想の中で、今後も増えるだろう外国人の方々との付き合いの仕方は、人口減少や高齢化社会との関係性を考えるには、北播磨のビジョンとしても極めて有効で意識的であるべきだという意見として承る。

[事務局]

北播磨地域の特徴として、製造業が非常に盛んなため、実習生や派遣で来ている方が非常に多いが、定住している方もある。大まかな特徴として、西脇市はアフリカ系、加東市はベトナム、そして三木市にはシリアの方もいると聞いている。住んでいる間、地域の方々とうまく交流していくかが今の時点での最大の課題だ。派遣業者によれば、地域住民の方とのトラブルを非常に気にしていて、なるべくかわらないように言っている業者もいると聞いている。トラブルがあるというのはよく聞く話で、それを恐れて制止している業者もあると聞いている。我々としては、日本に来てもらっている間は、日本でできるだけ様々な形で交流して帰国してほしいという思いで、いろいろな政策を実施している。

[委員長]

今、指摘があったような、外国人との付き合いの中に様々な問題があるということは、これまでも他の会議で聞いた。そういうことを考えると、将来構想として、外国人との付き合い方ということが一つのテーマ、焦点化の一つとして意識されるべきであって、この構想イメージの中に、重点的な検討も必要であると受けとめれば良いだろう。

[委員]

2050年の新地域ビジョンは30年後の理想ということだが、今、外国人と言っているが、2050年に外国人という言葉があるのかどうか。例えば今、移住者を各市町で取り合っている。5、6年前から、空き家対策を含めて移住を各市町が促進しているが、移住者は、5年10年そこに住むと、私たちは移住者と思わない。地元民だ。一緒に生活し子どもたちは一緒に学校に通い、同じようにPTAの役員や地域の行事など、昔から各地域で受け継がれてきた歴史的な行事も一緒にしている。

そう考えると、現在、労働、産業専門で来ている外国人は、年数に制約があるので帰国するが、日本を気に入って、法律が変わり日本に移住して住むようになる時代も来るだろう。30年後は世界がもっとグローバル化している時に、いつまでも外国人と言うのだろうか。

もう一つ、年齢での定年制は無くなるだろう。60歳定年制、65歳定年制というのは無くなる。労働内容と、その本人の体力、気力によって定年が決まる。現在は、年齢によって給料が上がり、年齢によって定年となるが、60歳を超えても働ける人は働くが、身分は嘱託員になる。しかし、人生100年時代の中、年齢定年や年齢での待遇など、昔ながらの考え方は無くなる。高齢者だから車が乗れない。勤務先へ行けないと言うが、2050年にはもう自動運転車の時代になっている。もしかすると運転免許がいらなくなる時代になっているかもしれない。小学生が車に乗って通学するかもしれない。30年前は、携帯もパソコンもなく、家にはブラウン管のテレビが1台しかなく、黒い電話が1台あった時代が、今は大変な技術の進歩だ。今からの技術的進歩は更に加速化し、IoTや、AIの技術というのは、もっと多角化し、人の労働力や労働内容も変わってくる。北播磨は既に超高齢化社会であるが、人だけでなく機械も含めた労働力は減るわけでない。人口減少も、地元民や日本人の人口減少にはなるが、外国人を含めた全体的な人口は減少するのとはどうなのかと思う。ただそこで言われているように、歴史感、風土、風習といったものをどこまで残し、北播磨らしさや北播磨の良い部分を、どこまで次世代につなげていくかというところが今後の課題かと考える。

[委員長]

今の話はかなり広い話で、世界のあり方、日本のあり方と、そういう状況が変わっていくことを考えたときに、今議論している北播磨ビジョンということを考えると、その世界全体、日本全体、県全体の中で、そういう動きがあった上で、北播磨では特にどういうところに意識を向けるかが重要なのか、というような話であったように思う。

[委員]

先ほど3章の話で、今の外国人の話は、最近、偶然に私も愚痴を聞いた。戦力になったら3年で帰国しなければいけなく、余程の事情があれば5年まで在留できる。地域としても、交流しようと思った時には帰国してしまう。以前にも少し話したが、ビジョンという目標を作るということは非常に大事なことはあるが、地域で活動していると、今、目の前にある課題を、すぐやらないといけないというひずみがある。今の外国人の話でも特にそうだ。私も夜に歩いているが、本当に多くの外国人と出会う。どうやって接したらいいのかと思っていて、さあと思ったら3年で帰国してしまう。そういう制度も変えていかないといけないと言っていた。雇っている側からするとそういうことがある。もう一つは、私も今、自治協議会という会を立ち上げている。西脇市は8地区あるが、そのうちの4地区が、ようやく自治協議会を立ち上げて連携していこうと、昨年度1回目の会合をした。自治協議会としての連携だ、まちづくりとしての連携、このことばかり話すと、ビジョン会議にはならないかもしれないが、やはり車の両輪なので、今日の前にあることを解決しながら、こういう目標もつくっていかないといけない。私だけかもしれないが、不信感があるのは、こういう会議が市でもあるが、会議をしてまとめただけで終わってしまう。実際に私たちがやっているのは、目の前に人を集めて、一緒にやりましょうと言ってやっている会で、会社ではないから引き留められない。しかし、若者も入れて、これからの時代を担ってくれる人を育てていくというのが片方にあるので、これを

しっかりやらないと、絵にかいたもちになってしまう。ひずみを今、私は埋めると自分で言い聞かせながら皆さんを引っ張っているつもりでいる。ビジョン会議としては私の考えていることは少し違うのかもしれないが、やはり、時代の流れが非常に早い。30年前に今のこの状態を想像できたのか。それからするとこれから30年、つないでいくということのを大事にしていきたいと思ひ話している。当然、ビジョン会議では、目標を作らないといけないことは理解している。

[委員長]

30年後のビジョンといいながら、目の前にある問題と無関係ではなく、目の前にある問題を解決しながら、さらに将来的なことを見据えていくという積み重ねが30年後に繋がるということで、今の意見はビジョンの構成には直接的ではないかもしれないが、行政のいろいろな方針のあり方として、積み重ねていくということのを要望し、それが30年後のビジョンにも繋がる形での取り組みが必要だという意見だと伺った。

[事務局]

おっしゃる通りで、ビジョンをこういった形で30年後どう目標立てていくのかということのも行政の一つの大事な仕事だ。一方で、目の前にある仕事を片付けていくというのは、我々の日々の仕事の中だと認識している。それは、各市町も同じだ。それは皆様の要望もあり、私も毎日、今もコロナという最前線で戦っている。そういう形で毎日処理をしているのが、今、話された形だろうと思う。その延長線上に未来があるのは確かだが、積み重ねだけではなく、我々としては将来こうなりたいというのを皆で夢を持ってそれに向かっていきたい。それがビジョンであろうと認識している。実現するかどうかわからないと言っては身も蓋もないが、今から30年前、1990年というのは、ちょうどパソコンが入り始めた時代で、携帯電話もすごく大きい携帯を持ち始めた時代で、想像もつかないが、その時代にもやはり、ビジョンを想定し、それに向かって県も市も町も取り組んできた経緯がある。そういった取り組みを、車の両輪としてもらえたらありがたいのでよろしくお願いします。

[委員]

感想のようになるかもしれないが、資料4が若者達の意見ということで、とても興味深い結果だと思う。15ページは、ワークショップで出た話し合いのまとめと思うが、これを見ると、意欲の高い人達が集まっているのだろうと思う。意欲の高い人達が集まっている話し合いであっても、例えば、「ゆるい」とか、「べっちょない」とか、「ちょうどいい」とか、そういう意見がすごく多く、現状肯定的な印象だ。北播磨のいいところを、すごく受け入れているという感じがする。資料8の北播磨新地域ビジョンの構成イメージの第3章を見ると、こういうことが想定される時代に入っていくのに、それに備えなくていいのかとすら感じる回答に見えるかもしれない。今後起こるであろうことへの備えを求めているかのような、県全体のまとめと、この資料4の皆さんが語っている牧歌的な印象をもつ意見の感じとの間の開きを感じる。このことは決して若者達がしっかり考えてないではないかということではなく、むしろ私は肯定的にとらえているところがある。我々のような鉄腕アトム世代は、科学で乗り切るとか、新しい技術で社会を切り拓くといったような、30年後のイメージをどうしてもぬぐえないが、若者達は案外、今の時代を受け入れながら、それに適応していく。そういう心のありようというものを持っているのかと感じる。これは世代の差で、高度成長時代ではなくて、社会がある程度、成長が止まってしまった時代に生きてきている世代と、どんどん成長していた時代を経験してきた世代の差なのかもしれない。そのような、若者達の感覚も考えながら、30

年後というのを考えていくことが必要なのだろうと感じた。皆さんの議論と少し違う観点なのかもしれないが、例えば、外国人と一緒に、これからどうやっていくのかというのは、またその時に考えればいいというような感じが若者達の中にはあるのかもしれないと、若干そのように感じ取られるような、若者達の議論だという印象を持ったので発言した。

[委員長]

感想を含めた意見ということで、事務局の方で対応いただきたい。

[副委員長]

提案だが、資料8第5章の現行ビジョンの地域像で、交流、生活、文化、環境、産業という5つがでていますが、私の意見は交流の代わりに、健康を入れたらどうかということだ。交流は、これからは、他の分科会も全て交流を考えて行えばいいのではないかと考える。健康というのは人間生活の一番の基本であり、社会的にも2050年問題として社会保険、医療保険を初め経済や労働などに大きな影響を及ぼす。日本人は平均寿命と健康寿命の差が男は9年、女は13年と大きく、病気で日常生活が制限される期間が10年以上の長期に渡っている。最近ジェロントロジー（老年医学）老齢期の研究も進んできた。健康であれば、介護保険料も少なくなるし、医療保険も随分助かるのではないか。本人も充実した人生を送れると思うので、ぜひ健康を入れてほしい。交流はいろんな分野、生活の場面や文化、環境の面でも考慮してやっていけると思う。

[委員長]

ただいまの意見を取り入れて、いろいろ検討いただきたい。地域ビジョンの構想については、全体としての概要と構成イメージに関しては、異議がなかったようですが、異議がなかったことを踏まえて、幾分加筆修正するというような内容も必要であると思う。この点を踏まえて議論を進めてほしいと思う。また後日、どのように変更があったか、なかったかということも含めて、報告いただきたい。

(3) その他 資料9について事務局から説明

[委員長]

以上で本日の議事は終了した。協議、意見交換は大変充実し有意義であった。

[事務局]

それでは第3回検討委員会を閉会する。第1回起草部会を、2月24日に開催する予定。起草部会委員には、改めて連絡する。